

■設立の背景（School Aid Japan 事務局長 住田 平吉）

School Aid Japan が教育支援に入っているカンボジアのどの州にも孤児がいます。両親がエイズで亡くなり残された孤児や、母親が死亡したあと父親に捨てられた孤児などです。多くの孤児は、村人に引き取られ一緒に生活していますが、兄妹だけで住んでいる子どもや、孤児同士で生活している子どももいます。村人も面倒を見てくれますが、貧しいので食事や教育の面倒までは見られないのが現状です。

SAJ が学校調査で出会った子どもたちを紹介します。

A 君（小学校3年生、13才、男子）の両親はエイズで死亡。親戚のおじさんに育てられています。他団体から、1か月に米30Kgと塩・油の支援を受けています。支援物資はおじさんに私、食事は1日2回。おじさんの仕事は無く、豚のえさにする山芋を掘りに連れて行かれるので、学校をよく休むそうです（担任の先生の話）。13才にしては身長が低く、暗い顔をしていて、話しかけても黙っていて、笑顔がありません。

B さん（小学校5年生、14才、女子）の両親は病死、父親は行方不明。長女で下に3人の弟妹の4人で生活しています。3人の弟妹は学校に入っていない長女は他団体からの奨学金（制服・文房具）で学校に通っています。お米支援は受けていません。隣近所の村人が面倒を見てくれるが、食事はあまりもらえません。Bさんは学校での朝給食のご飯を食べずにビニール袋に入れて帰り、お昼に4人で食べます。周りの子どもじぶんの給食を少しずつ分けてあげていました。

この孤児や子どもたちは、SAJ が学校調査でたまたま出会った子どもたちです。気の毒な現状に胸を痛め「何とかしてあげたい」との思いはつゆのりですが、何も出来ないことで無力感に苛まれていただけでした。話をしていると「将来の希望」を持っていません。今生きることに精一杯で、将来の希望など持てないのかもしれませんが。また、子どもたちには教育を受けるお金も機会も在りません。この子どもたちの将来は、今の生活の繰り返ししかない様にも思われます。

「夢追う子どもたちの家」を建てたいという思いはこんな背景から生まれました。

公益財団法人 School Aid Japan
事務局長 住田 平吉



運営方針について(宣言文)

●運営方針

「80人の子どもたちの幸せのためだけに運営する」

「夢教育をする・夢が叶うまで、その夢と伴走する」

- ①しっかりとした生活習慣を身に付けさせる
- ②あるべき人格を身に付けさせる
- ③自立した人間を育てる

「夢追う子どもたちの家」では、毎朝朝礼で子どもたちが
宣言文の宣誓をします。

宣言文

—私たちは決して失望しない—

何故ならここに「私の家」があるから

ここに「私の家族」がいるから

ここは～夢追う子どもたちの家～

私たちは決して夢をあきらめない

多くの人と共に必ず幸せになってみせる

夢を追い 夢を叶えてみせる

—この家の子として 私たちは約束する—